

愛着形成

愛着形成に見られる子どものタイプ と

愛着形成に有効な子育て

作成：子育てwin3計画（2025）



安定型（B型）

母親が離れると悲しむが再会で安心する子



回避型（A型）

母親が離れてもあまり動揺しないクールな子



アンビバレント型（C型）

分離時に激しく混乱するくせに、再開時に怒りをぶつける子



無秩序（D型）

近づきたいのに怖いという矛盾した感情を抱えている子

①殴る・怒鳴る・威圧する、子供の前で取り乱すなど、子供にとって「恐怖の存在」になっている。

②放置、無関心、頻繁に親が変わるなど、「安定した愛着対象」になっていない。

③親自身がトラウマ・うつ・依存などで養育機能を果たせない。

ネグレクト、養育者の交代、愛着が形成されにくい施設環境などによるトラウマやストレスが要因。

双方向性

リズム
テンポ

敏感性

やり取りを楽しむ！

テンポよく
リズムを合わせて！

サインを見取り、
適切に介入！

文献：De WolffとVan IJzendoorn（1997）

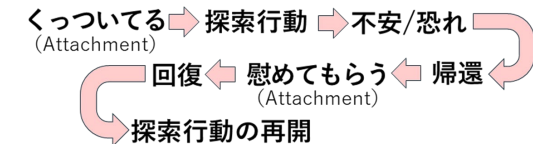
【A型の子には】自立を認めつつ、子どもに合った愛情の伝え方を探る。

【C型の子には】気分を左右されず「優しい一貫性」を示す。

【D型の子には】母親への支援と安心できる人間関係の再構築が必要。



愛着形成のサイクル



何度も経験することで

安全基地の内化が強化される

【対応の基本姿勢】子どものサインを敏感に見取って一貫して応える。

「安全基地」の不安定な愛着形成不全

虐待などの逆境体験

①反応性愛着障害

（ASD様；ひきこもり、無気力、無関心など）

②脱抑制型愛着障害

（ADHD様；知らない大人に過度に親密になろうとするなど）

【ACE】（小児期逆境体験）①親や家族からの身体的虐待、②精神的虐待、③性的虐待、④ネグレクト、⑤精神的ネグレクト、⑥DVの目撃（母親の被害）、⑦同居家族の精神疾患、⑧同居家族の犯罪、⑨同居家族の薬物やアルコール依存、⑩両親の離婚や別居 など

愛着形成に関する「9つの育児行動」

De WolffとVan IJzendoorn (1997)

双方向性
(お互いに楽しむ)

**迅速な
応答**
(すぐに応答)

敏感性
(敏感に見取る)

**リズム
テンポ**
(心地よい流れ)

協調性
(協力的な態度)

**情緒的
サポート**
(温かい支援提供)

**肯定的
態度**
(ほめる・認める)

**身体的
接触**
(スキンシップ)

**積極的
働きかけ**
(発達を促す行動)

育児行動の構成概念

Marianne S. De Wolff and Marinus H. van IJzendoorn

Sensitivity and Attachment: A Meta-Analysis on Parental Antecedents of Infant Attachment (1997)

「敏感性と愛着：乳児の愛着の親による先行条件に関するメタ分析」より

1. Mutuality (双方向性) : $r = .32$

2. Synchrony (リズム・テンポ) : $r = .26$

3. Sensitivity (敏感性) : $r = .22$

4. Positive Attitude (肯定的態度) : $r = .18$

5. Stimulation (刺激) : $r = .18$

6. Emotional Support (情緒的サポート) : $r = .16$

7. Cooperation (協調・邪魔をしない関わり) : $r = .13$

8. Contiguity of Response (応答の隣接性：タイミング) : $r = .10$

9. Physical Contact (身体的接触) : $r = .09$

エビデンスのある「愛着形成に有効な3つの方法」

De WolffとVan IJzendoorn (1997)

双方向性

やり取りを楽しむ！
(楽しそうに教える)

Child Development, August 1997, Volume 68, Number 4, Pages 571-591

Sensitivity and Attachment: A Meta-Analysis on Parental Antecedents of Infant Attachment

Marianne S. De Wolff and Marinus H. van IJzendoorn

This meta-analysis included 66 studies ($N = 4,176$) on parental antecedents of attachment security. The question addressed was whether maternal sensitivity is associated with infant attachment security, and what the strength of this relation is. It was hypothesized that studies more similar to Ainsworth's Baltimore study (Ainsworth, Blehar, Waters, & Wall, 1978) would show stronger associations than studies diverging from this pioneering study. To create conceptually homogeneous sets of studies, experts divided the studies into 9 groups with similar constructs and measures of parenting. For each domain, a meta-analysis was performed to describe the central tendency, variability, and relevant moderators. After correction for attenuation, the 21 studies ($N = 1,099$) in which the Strange Situation procedure in nonclinical samples was used, as well as preceding or concurrent observational sensitivity measures, showed a combined effect size of $r(1,097) = .24$. According to Cohen's (1988) conventional criteria, the association is moderately strong. It is concluded that in normal settings sensitivity is an important but not exclusive condition of attachment security. Several other dimensions of parenting are identified as playing an equally important role. In attachment theory, a move to the contextual level is required to interpret the complex transactions between context and sensitivity in less stable and more stressful settings, and to pay more attention to nonshared environmental influences.

リズム
テンポ

テンポよく
心地よいリズム



敏感性

サインを見取り、
適切に介入！



反抗期

第一次

1～3歳頃
(イヤイヤ期)



3～4歳頃
(意図的反抗期)



第二次 (思春期)

11～17歳頃

あり

強いタイプ
弱いタイプ

なし

前向きタイプ
無気力タイプ



まとめ【心理的リアクタンス】

【理解のための大前提】

幼児が《コントロールされている》と感じたときに、反発・無視などで抵抗するのは、単なるわがままではなく、心の発達のごく自然な反応である。

【反発や無視の価値】

- (1) 自我・主体性の形成になる
- (2) 不当な支配に抵抗する力を育てる
- (3) 折り合いの力を学ぶ機会になる

【報酬系の作用】自分で決めた遊びは快感になる。

A～Dは子供のタイプ

□は親の傾向

注）この図における愛着障害とは広義のものであり、その原因は「育て方」ではなく、逆境体験または愛着形成の不全（不安定な状態）に起因することを示すものである。

愛着障害の原因：愛着形成の不全と逆境体験

文献：J・ボウルビィ『愛着行動（母子関係の理論（1）』（1991）

愛着形成

安定型（B型）

母親が離れると悲しむが再会で安心する。

子どものサインを敏感に見取って一貫して応える。

※日本の伝統的子育て

回避型（A型）

母親が離れてもあまり動揺しない。クール。

自立を求め、対応を控える。

※欧米型

アンビバレント型（C型）

安心しきれないため探索行動が少ない。感情が不安定。

対応が気分に左右される。優しい時もあれば、無視したり、怒ったりする時もある。

無秩序（D型）

固まる・混乱する・逆方向に歩く・どうしたらいいかわからない。

①殴る・怒鳴る・威圧する、子供の前で取り乱すなど、子供にとって「恐怖の存在」になっている。

②放置、無関心、頻繁に親が変わるなど、「安定した愛着対象」になっていない。

③親自身がトラウマ・うつ・依存などで養育機能を果たせない。

ネグレクト、養育者の反復交代、愛着が形成されにくい施設等での養育などによるトラウマやストレスが要因。

【逆境体験】①親や家族からの身体的虐待、②精神的虐待、③性的虐待、④ネグレクト、⑤精神的ネグレクト、⑥DVの目撃（母親の被害）、⑦同居家族の精神疾患、⑧同居家族の犯罪、⑨同居家族の薬物やアルコール依存、⑩両親の離婚や別居 など

①反応性愛着障害

※増える傾向（ASD様；ひきこもり、無気力、無関心など）

②脱抑制型愛着障害

（ADHD様；知らない大人に過度に親密になろうとするなど）

「安全基地」

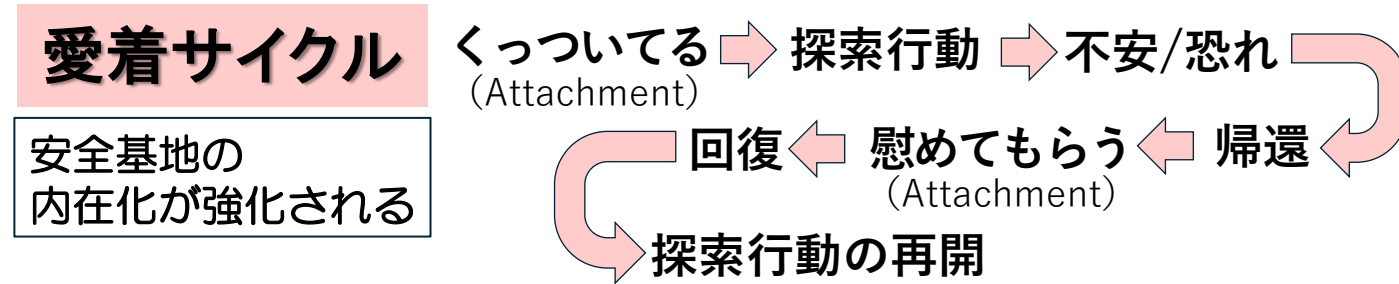
の不安定

愛着形成不全

虐待などの
逆境体験

愛着障害の原因 ≡ 愛着形成の不全または未形成

(1) 愛着形成不全…「愛着サイクル」の不足



(2) 無秩序型の養育…「安全基地」の不安定さ (D型)

*ストレンジ・シチュエーション法

- ① 殴る・怒鳴る・威圧する、子供の前で取り乱すなど、子供にとって「**恐怖の存在**」になっている。
 - ② ネグレクト・放置・施設・親が変わるなど、「**安定した愛着対象**」がない。
 - ③ 親自身がトラウマ・うつ・依存などで養育機能を果たせない。
- ➡ 子供は「**近づきたい／でも怖い**」葛藤を処理できず、愛着システムが崩壊する。

(3) 虐待による…① 反応性愛着障害

(ASD様; ひきこもり、無気力、無関心など)

② 脱抑制型愛着障害

(ADHD様; 知らない大人に過度に親密になろうとするなど)

育児行動の構成概念

1. 敏感性	子どものシグナルを正確に知覚し、適切かつ迅速に対応する能力。
2. 応答の隣接性	子どものシグナルに対して、時間的にどれだけ迅速に（近く）反応するか。
3. 相互性	親と子の間で、やり取りが円滑で、お互いに楽しんでいる状態や、自然な流れがあること。
4. 同期性	親と子の行動や感情のタイミングが、リズムカルに一致していること。
5. 協調性	親が子どもの活動や目標に対して、邪魔をせず、協力的な態度で接すること。
6. 情緒的サポート	親が子どもに暖かさ、受容、安心感、および心理的な支援を提供すること。
7. 肯定的態度	親が子どもに対して全体的に温かく、肯定的な感情や見方を持っていること。
8. 身体的接触	親が子どもに触れたり、抱きしめたりするなど、身体的な接触の頻度や質。
9. 刺激	親が遊びや言葉を通じて、子どもの探索や認知的な発達を促す働きかけ。
10. 敏感性	子どものシグナルを正確に知覚し、適切かつ迅速に対応する能力。

De WolffとVan IJzendoorn（1997）